

庵(いおり)功雄著「やさしい日本語—多文化共生社会へ—」岩波新書(新赤版)1617 岩波書店 2016年8月19日刊を読む

付録

<やさしい日本語>マニュアル

I. ここでは、筆者を研究代表者とする研究グループと豊橋市役所の協働で作成した<やさしい日本語>マニュアル(『やさしい日本語』を使ってみよう～外国人に分かりやすい・伝わりやすい日本語～)から、「書き換え」と「会話」のポイントになる部分を抜粋して提示します。

II. 置き換え編

<やさしい日本語>に書き換えるときは、必ずしも原文全てを忠実に書き換える必要はありません。一番大切なことは、どうすれば伝わりやすいか「相手の立場に立って考える」ことです。

1. ★情報を取捨選択し、一文を短く

- (1) 想定する読み手を絞って、相手に何を促したいのか、という視点から整理します。
- (2) その際、不必要な情報は思い切って削ります。

2. ★結論や大切な情報は、なるべく文書の最初に書く

- (1) 一番伝えたいことは先に明示します。
- (2) また、下線や枠囲いなどで強調することも有効です。

3. ★必要に応じて補足情報を加える

- (1) それだけでは意味が理解しにくいものは、()書きなどで補足の説明を加えましょう。
- (2) また、★や※などで注記するのも有効な手段です。
- (3) (例) 高台(高いところ)、土足厳禁 ※靴を履いてはいけません

4. ★図やイラストを活用する

- (1) 難しい漢字や意味も一目で理解できます。
- (2) (例) 天麩羅

5. ★文末を統一する

文末を統一することで、読みやすくなります。

6. ★漢字等にはひらがなでルビをふる

- (1) 漢字にはひらがなでルビをふりましょう。
- (2) カタカナ英語や擬音・擬態語も使わないようにします。
- (3) (例) ①キャンセル⇒やめる
②頭がガンガンする⇒頭が痛い

III. 会話編

外国人に関わらず、会話においてもっとも大切なことは「相手を思いやる態度」です。下記に

会話の際のいくつかのポイントを挙げますので、これらを意識して話してみましよう。

1. ★説明は短く簡潔に

簡潔に話すほうが、聞いていて理解がしやすいものです。

2. ★会話の途中で「分かりますか？」と確認する

(1) 会話は文章と異なり、相手の理解度を確認しながら話すことができます。

(2) 長い説明のときでも、その都度確認しながら進めます。

3. ★分かっていないと感じたら、別の言い換えを行う

(1) 理解していないと感じたら、どんどん別の言葉で言い換えてみます。

(2) (例) 公共交通機関を利用してください。

①⇒バスやタクシー、電車で来てください

②⇒自分の車で来てはダメです

4. ★相手の表情や反応を見ながら話す

会話では相手の態度や表情からもいろいろと分かります。

5. ★ゆっくりはっきり発音する

ゆっくりはっきり発音することで理解しやすくなります。

6. ★資料や図を活用する

ことばで伝わらない場合は、その場で図や資料などを活用します。

7. ★難しい単語や言い回しは使わない

(例) ①納付してください⇒お金を払ってください

②ご用件は何ですか？⇒どうしましたか？

IV. これ以外に、庵監修(2010、2011)に挙げている心得の中からも抜粋して追加します。

1. 自分だけが話しすぎない

2. 1回であきらめない

3. 尊敬の気持ちで

4. いろいろな質問文を作ってみる

5. 質問しているのか説明しているのか、はっきりさせる

6. だまって相手の話が終わるのを待つ

7. 使えるものは何でも使おう

<コメント>

第2言語としての日本語教育方法論の第一人者のお一人、庵(いおり)先生のメインテキスト。共通言語としての「やさしい日本語」を「書き」「話す」ときの基本が手際よくまとめられています。是非、御一読ください。

2020年2月25日(火)